田

「を植ゑて

正作

名 L 怪 ず 蝶 0) 0 を む B 牡 牛 薄 馬 b 賓 吉 丹 0) 5 頭 き 場 野 百 尻 ひ 盧 が K 0 牡 K 花 尾 太 集 静 丹 似 が 0) き L 0 ひ け 楽 竸 蝌 疲 子 草 さ S 蚪 n 規 团 朝 合 < 0 を 0 ŋ 子 桜 紐 Š 顏 7

争

は

盗まれる日々となるが、

一日一日の

苗の生長と付き合うのは楽しく、鴨

しい空気をたくさん吸えるのである。

も鷺も来よう。

青田となるまで瑞々

これからは水の管理で水を盗んでは

の苗そよぎそむ〉という句がある。

源

氏

信

心

春

惜

紋

黄

調

教

物

0

時期なのである。 りは業者に頼んでいて、 りの一枚田であるが、 なり動こうにも動けない。三反ばか あった。今は毎年田植えの時期と重 ないが、以前は田舎へ帰る楽しみが もと人混みの中へ行くのは好きでは 除草がまた私の仕事となるのである。 と田植えが終了すると、水の管理と して水を張る。その後業者の代掻き に肥料を撒き、またトラクターで耕 めにトラクターで田起しをして、次 ークに旅行をしたことがない。もと 登四郎先生に〈田を植ゑて二三日 ここ十年ぐらい、 私の仕事は四月初 ゴールデンウイ 田植えと稲刈 いつもこの